

## 2026 年度シラバス

科目分類/Subject Categories			
学部等/Faculty	/工芸科学部/工芸科学部 : /School of Science and Technology/School of Science and Technology	今年度開講/Availability	/有/有 : /Available/Available
学域等/Field	/全学共通科目/全学共通科目 : /Program-wide Subjects/Program-wide Subjects	年次/Year	/1年次/1年次 : /1st Year/1st Year
課程等/Program	/基盤教養科目/人間教養科目(2023年度以前入学者) : /Liberal Arts/Liberal Arts(Course for students enrolled before 2023 academic year)	学期/Semester	/前学期/前学期 : /First term/First term
分類/Category	//基本教養 : //Foundations in Liberal Arts	曜日時限/Day & Period	/月4 : /Mon.4

科目情報/Course Information				
時間割番号 /Timetable Number	10111408			
科目番号 /Course Number	10160196			
単位数/Credits	2			
授業形態 /Course Type	講義 : Lecture			
クラス/Class				
授業科目名 /Course Title	食と健康の科学 : Sciences for Food and Health			
担当教員名 / Instructor(s)	/(小林 ゆき子)/他 : KOBAYASHI Yukiko/etc./			
その他/Other	インターンシップ実施科目 Internship	国際科学技術コース提供科目 IGP	PBL 実施科目 Project Based Learning	DX 活用科目 ICT Usage in Learning
			○	
	実務経験のある教員による科目 Practical Teacher	○	代表教員は病院や検診施設等で管理栄養士として従事した実務経験あり、担当教員の1人は大学病院および調剤薬局で薬剤師として従事した実務経験あり。	
科目ナンバリング /Numbering Code				

授業の目的・概要 Objectives and Outline of the Course	
日	食と健康の現状を栄養科学、食品科学、健康科学、食品衛生学、食事科学、栄養教育論、調理科学、運動生理学等の科学的な観点からオムニバス形式で概説する。
英	

学習の到達目標 Learning Objectives	
日	食と健康の現状と課題を知り、これからのわが国の食のあり方について考察する能力を養う。
英	

学習目標の達成度の評価基準 / Fulfillment of Course Goals (JABEE 関連科目のみ)	
日	
英	

授業計画項目 Course Plan			
No.		項目 Topics	内容 Content
1	日	第1回	オリエンテーション/栄養と栄養素 (小林ゆき子講師)

	英		
2	日	第 2 回	摂食嚥下機能と栄養（小林ゆき子講師）
	英		
3	日	第 3 回	スポーツ現場における栄養（青井渉准教授）
	英		
4	日	第 4 回	乳児期・幼児期における栄養（小林ゆき子講師）
	英		
5	日	第 5 回	医療現場における栄養（小林ゆき子講師）
	英		
6	日	第 6 回	水産食品の機能性（田代有里講師）
	英		
7	日	第 7 回	食品冷凍冷蔵の科学（田代有里講師）
	英		
8	日	第 8 回	日本と諸外国における食事摂取状況の違い（長幡友実准教授）
	英		
9	日	第 9 回	遺伝的背景や社会経済的背景が食生活に及ぼす影響（長幡友実准教授）
	英		
10	日	第 10 回	野菜の機能性（佐々木梓沙助教）
	英		
11	日	第 11 回	食物アレルギーとアレルゲン（佐々木梓沙助教）
	英		
12	日	第 12 回	食中毒発症のメカニズムとその予防（岡真優子准教授）
	英		
13	日	第 13 回	感染症の発症メカニズムと免疫活性食品（岡真優子准教授）
	英		
14	日	第 14 回	食事の基本とおいしさの科学（村元由佳利講師）
	英		
15	日	第 15 回	【対面】 レポート輪読会（村元由佳利講師）
	英		

履修条件 Prerequisite(s)	
日	
英	

授業時間外学習（予習・復習等） Required study time, Preparation and review	
日	1) 毎回の講義後には復習を行い、指示された課題を作成、提出する。 2) 講義内容と関連する書籍を読み、レポート作成を行う。  本講義に対しては、67.5 時間の予復習に充てる自己学習時間が必要である。
英	

教科書／参考書 Textbooks/Reference Books	
日	都度資料を配布する
英	

成績評価の方法及び基準 Grading Policy	
日	出席が 11 回以上必要とし、10 回以下の者は未履修として評価（採点）の対象外とする。 最終講義日に行われる対面の輪読会への出席を必須とし、欠席もしくは最終レポート未提出は評価対象外とする。 興味をもった講義テーマに関連する書籍・文献を 1 冊以上読んでレポート（A4 サイズ、3,200 字程度）を最終講義日までに作成する。最終講義日での輪読会と討議を経て、評価シートおよびレポートを提出する。 輪読会参加は、レポートを紙ベースで準備・持参する、デバイス表示による代替は認めない。

	これらは状況により変更あり。都
英	

留意事項等 Point to consider	
日	<p>第 1～14 回は講義（対面またはオンデマンド）、第 15 回は討議（対面）で実施予定。</p> <p>状況により変更あり。変更の際は別途通知する。各回の講義詳細や課題については Moodle や講義内で都度指示する。</p> <p>講義資料は、紙ベース配布、もしくは Moodle を通じて PDF にて配布する。</p> <p>PDF 資料は印刷するなど、講義までに必ず事前に手元に準備しておくこと。</p>
英	